

水道事業

水道水 飲料水として安全か 計画して検査し問題はない



みやがわ のりみつ
宮川 徳光 議員

問 全国で深刻な社会問題となっている水道管の老朽化問題は、水質低下

答 河村建設課長

水質については、毎年水質検査計画を定めて実施しており、原水の取水地や、配水管末の給水管にて採水しての検査など、浄水された水道水において、近年異常が検出されたいことはなく、飲料水として問題はない。

や財政負担の増大など、広範囲にわたる影響を及ぼしていると言われる中、本町の水道水の水質について、住民の飲料水として安全なものか。また、水道管の更新や耐震化の計画と、近年の財政概況を問う。

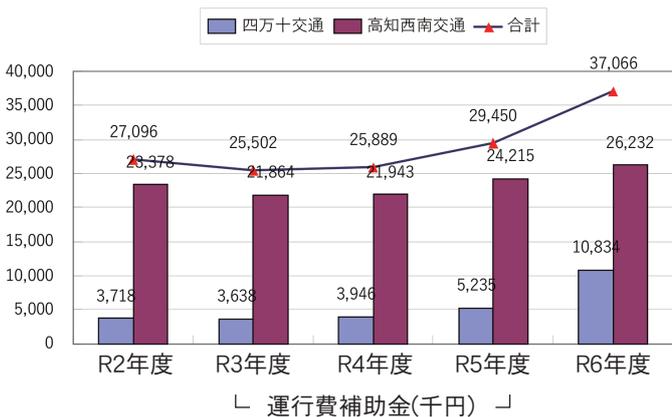
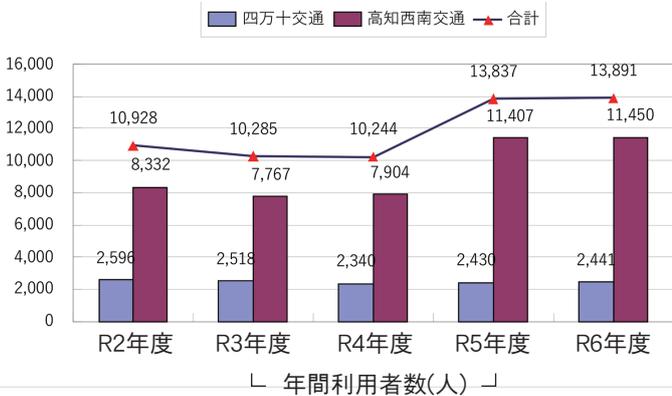


更新に併せて耐震化を進める水道管工事（令和7年2月下旬、入野早咲）

今後の更新計画は、令和7年度に開催予定の経営戦略にて決定して実施していく。財政の概況は、最近の物価上昇等により費用が増大し、逆に給水料金収入は、給水栓数の減少により少し減少で、厳しい状況となってきた。

また、上水道管の更新は、令和2年度作成の水道施設耐震化更新計画に基づき実施している。この中では基幹管路や重要給水施設へつながる管路から更新を行うとしており、令和7年度も、上水道管の更新を予定している。

近年の公共交通の年間利用者数と運行費補助金



公共交通バス

**再構築に
取組むべきでは
ない**
利便性高まる
交通体系を

問 公共交通バスについて、直近5年間の利用者数と補助金額を問う。

答 渡辺企画調整室長
公共交通バス事業は、各年の10月から9月まで

が改定年度で、令和6年度実績は、利用者数が1万3891人、町補助金額が3706万円。直近5年間の利用者数と補助金額は左図のとおり。

問 公共バスについては、多くの便がほとんど空席で走っている状況がある。県も地域の公共交通の再構築に取り組むとのことだが、本町も再構築に取り組むべきではないか。

再構築に取り組むとのことだが、本町も再構築に取り組むべきではないか。

答 大西町長
利便性が低くて、安いものを継続していくのか。または少々、財政負担が増えても利便性の向上につながる体制を組むのか。それらについて令和7年度に本格協議に入りたいと思っている。

いざににしても、多額の投資は出来ないが、少しでも住民の利便性が高まる公共交通体系の構築していきたい。